

2012年5月21日(月)の朝、金環日食が起こります！！

運動会の振替休業日の5月21日(月)の朝、国内では1987年9月23日に沖縄で見られて以来25年ぶりに『金環日食』を見られます。それもなんと東京で！！このような現象は、人生のうちでもそう滅多にあるものではありません。ぜひ興味を持って観察してみましょう。ただし、日食の観察には危険が伴います。その点を踏まえ、安全に観察する必要があります。

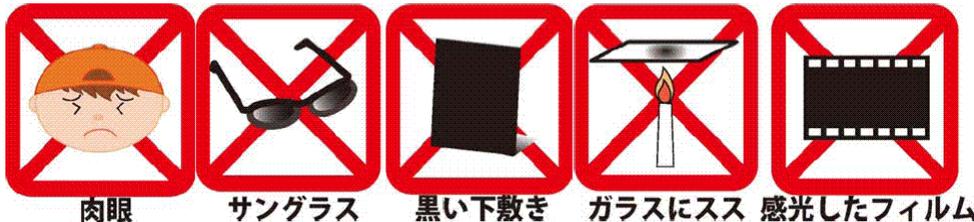
太陽はとても明るい天体です

太陽の明るさは、1等星のおよそ1200億倍、満月のおよそ46万倍もあります。夜空の満月ですらじっと見つめるとまぶしく感じますから、太陽の明るさは想像を絶するほどです。そのため、太陽を肉眼で直接見つめることは、たとえわずかな時間（1秒足らず）でも目に重大なダメージを及ぼす危険性があることを知っておいてください。誤った方法での観察は、網膜障害(※)や視力を失う危険性があることを十分に知っておく必要があります。

(※)日食のときに太陽の光を直接見ると、強い熱線や有害な波長の光（とくに380～550nmの青い光）によって目の網膜が傷ついて日食網膜症になる恐れがあります（さらに水晶体も傷つきます）。日食網膜症になると、視力が低下したり、視野全体がもやがかかったように不鮮明になったり、視野の中に黒い点が見えたりなど、目に障害が出て、その症状が数週間から数か月、ときには数年以上も続くことがあります。

“まぶしくない” = “安全” は間違いです

たとえ、サングラスや黒い下敷きなどで太陽の光が暗く見えても、それは可視光線（人間の目が感じる光）を弱めているだけで、目に悪影響を及ぼす赤外線（熱線とも呼びます）はさえぎられていない場合がほとんどです。いくら可視光線を弱めて“まぶしくない”状態で観察をしても、人間の目が明るさを感じない赤外線が、知らず知らずのうちに目に大きな障害をもたらす場合があることを知っておきましょう。人間の目が感じない紫外線についても同様で、可視光線を弱めているだけで紫外線が目に届いている可能性もあります。安全に太陽（日食）を観察するためには、その安全性が確認された太陽（日食）観察専用の器具（日食グラス等）を使用することをおすすめします。



長時間の観察は危険です 曇り空のときも十分に注意！！

太陽（日食）観察専用の器具（日食グラスなど）を使用しても、長時間続けて太陽を見続けることは避けてください。専用の日食グラス等は、可視光線はもちろん、紫外線や赤外線といった有害な光線も弱めてはいますが、それらを100%さえぎることはできません。観察は適度に目を休めながら行いましょう。1分以上連続して見続けることはやめましょう。また、曇り空のときに太陽が見えにくい時でも、直接見るのではなく、専用の日食グラスを使用してください。特に薄雲りのときがたいへん危険です。目を傷めた例が過去に報告されています。



今回の日食は東京では、左図のように見られます。

- 日食の始まり：
6時19分02秒
- 金環日食の初め：
7時31分59秒
- 金環日食の最大：
7時34分30秒
- 金環日食の終わり：
7時37分00秒
- 日食の終り：
9時02分37秒

2年生の廊下には日食のレポートが掲示されています！！

ゴールデンウィーク中に理科の課題で出された、「日食について」レポートが2年生の廊下に掲示されています。とても見やすくきれいにまとめられた作品が多くあります。日食の種類や原理、今回の金環日食についての見え方など参考になるものばかりです。

